

「コンパクトキューブ」が日本冷凍空調学会賞 技術賞を受賞

当社エネルギー応用研究所が、三菱電機(株)、関西電力(株)と共同で開発した空冷式ヒートポンプチラー「コンパクトキューブ」が、平成20年度省エネ大賞受賞に引き続き、平成21年度日本冷凍空調学会賞(技術賞)を受賞しました。

「コンパクトキューブ」は、ビル・工場向け冷房用冷水、暖房用温水を効率よく製造する機器で、高性能熱交換器やインバータ駆動圧縮機の最適制御などの省エネ技術の採用により、大幅な省エネルギー・CO₂排出量の削減を実現しました。また、機器を大幅にコンパクト化(設置面積約20%削減:従来機比)しており、リニューアル需要にも容易に対応可能です。

なお、「コンパクトキューブ」の販売は平成20年4月より三菱電機(株)が行っています。



コンパクトキューブ
(当社・三菱電機・関西電力共同開発)



片倉冷凍空調学会会長(写真左)から賞を戴く中山研究副主査(写真中央)

空気調和・衛生工学会賞 技術賞を受賞

本店法人営業部ソリューションGとエネルギー応用研究所が、システムの検証に携わった「熱源トータル最適制御コントローラの開発と導入事例」が、第48回空気調和・衛生工学会賞(技術賞)を受賞しました。

「熱源トータル最適制御コントローラ」は、ビル・工場用の熱源システム(冷温水機、ポンプ、冷却塔など)が常にシステム全体で最も効率の高い運転をするよう制御するものです。

半導体製造工場の熱源制御への導入事例では、従来のガスを利用した地域冷暖房システムに比較してCO₂排出量は約77%削減の効果が見られました。

なお、「熱源トータル最適制御コントローラ」の販売は東洋熱工業(株)が行っています。



検証に携わった肥田課長(本店法人営業部:当時)、櫻場チームリーダー、中山研究副主査(左より)

長研究副主査が日本ファインセラミックス協会賞「技術振興賞」を受賞

エネルギー応用研究所都市・産業技術グループ産業エネルギーチームの長研究副主査が、平成20年10月に発表した「高温過熱水蒸気発生システム」の中核技術である「ガラス被覆カーボンIHヒータ」の開発により、平成21年度日本ファインセラミックス協会賞「技術振興賞」を受賞されました。同賞は、(社)日本ファインセラミックス協会が、ファインセラミックス産業の振興・発展に貢献した技術開発に対し、その開発企業・団体を賞揚するものです。今回、カーボン基板を特殊雰囲気下でガラスコーティングすることで、両立が困難と考えられてきた高温水蒸気に対する耐酸化性と、急激な温度変化においても割れない耐熱衝撃性を併せ持たせる技術が評価

され、共同開発先である(財)ファインセラミックスセンターおよび(株)大同と連名での受賞となりました。



受賞された長研究副主査